

九州民放クラブだより

宮崎クラブの川柳同好会です

黒木 余生坊(MRT)

何遍も聞き返してる遠い耳(碌詩)。

宮崎県内の川柳愛好家の中、最高齢で活躍中の甲斐碌詩さんは、元日生まれの92才です。2か月ごとの私たちの定例会には元気にバスに乗って参加され、指南役として会の重鎮です。

昨年から今年にかけて、民放クラブ宮崎の川柳同好会には新たに3名を迎えることができました。

「かわせみ」さんは、最初から私たちの句会で金賞など獲得し、スランプも乗り越え今絶好調、とても新人とは思えない学習成果を上げています。新米のうぐいす藪で稽古する(かわせみ)。

班竹さんは「ボケ防止に川柳が良いと聞きました」との入会理由ですが、川柳の仕上がりはカメラマンだけあって、句会では「作品から映像が見えるようだ」との評も聞かれます。虫食いをわざわざ選ぶ無農薬(班竹)。

服部さんは「ゼロからの出発」と、選者の仕事から始まりました。私たちの句会はそれまでの夜の

居酒屋での焼酎句会も楽しかったのですが、年とともに夜道は足元の不安というところで、昨年からお昼の開催に切り替えました。ランチしながらの句会です。お昼でも何かの理由をつけてフランス料理の時は、赤ワインで乾杯! 日本料理の時はお酒で乾杯! 宮崎牛がメインの料理の時は地元の焼酎で盛り上がりです。お食事と川柳は6対4の割でしょうか?

居酒屋での焼酎句会も楽しかったのですが、年とともに夜道は足元の不安というところで、昨年からお昼の開催に切り替えました。ランチしながらの句会です。お昼でも何かの理由をつけてフランス料理の時は、赤ワインで乾杯! 日本料理の時はお酒で乾杯! 宮崎牛がメインの料理の時は地元の焼酎で盛り上がりです。お食事と川柳は6対4の割でしょうか?



川柳同好会

宮崎県には川柳の主な大会が年間2回、春は宮崎市川柳大会(今年で48回)と夏の宮崎県現代川柳大会(今年7回目)が開催されます。

新聞の文芸欄川柳部門の投稿などで良く目にして先輩諸氏を恐れることなく、勉強と思い参加するように努めています。

歴史とグルメの旅・宮崎滔天ちうてん

下田 和喜(RKK)

今回は3月14日(水)に県北の荒尾市にある宮崎兄弟の生家と資料館を訪ねた。資料館職員の説明を聞いて宮崎滔天と孫文に思いを馳せた後、小天温泉の那古井館へ移動。田代季久夫(RKK)理事から「熊本物語大陸を夢見た町」(この番組は孫文が日本に亡命中、宮崎滔天に誘われ生家を訪れた1897年、当時の三井三池鉱山トップの團琢磨と密かに会談したのではないかとの説に基づいて昭和63年に制作されたテレビ番組)にまつわる制作秘話を拝聴して、グルメの旅に相応しい昼食を美味しくいただきました。



総勢15名の参加者

弥生・雛月ランチ会

中島喜久(RKK)

平成29年度の女性のつどいを、3月15日に熊本市のホテルで行い、ひなまつりに因んだランチを堪能しました。参加者は8人。

まず、桃色が美しいノンアルコールカクテルで乾杯。続いて、彩り豊かな雛御膳に一同感激。「まあ、きれい!」と、かわいい声を上げ、すっかり気分は乙女の私たち。

しかし、出てくる出てくる病の話。耳が遠くなったとは、出席者の最高齢82歳の人、風邪かなと思っ行って行った病院で大きな病気が見つかり手術を行った人、突然視力に不都合が生じた人…などなど、それでも、病に負けず、仕事やボランティア、趣味のコーラスに勤しんでいらっしやるご様子。

そして、話は熊本地震のことになり「全壊した家の再建にやっ」とこぎ着けた「部屋の片づけに追われている」など、近況報告は尽きません。

熊本地震から丸2年、まだまだ復興の最中にある私たちですが、笑うこと、食べることが何よりの薬という結論に落ち着き、来年の再会を約束したのでした。